

業務拡大

診療放射線技師法の一部改正における
現状と今後の課題

河北総合病院

画像診断部

大地 直之

診療放射線技師法2014.6.18に一部改正

- ◇CT,MRI検査での自動注入器に造影剤注入
造影剤注入後の針の抜針、止血
- ◇下部消化管検査（カテーテル挿入含む）
- ◇画像誘導放射線治療時の腸内ガスの吸引のためのチューブ挿入

統一講習会の趣旨

講習会を受講することが「業務拡大に伴う行為」を技師が実施する必要条件ではないが、日本診療放射線技師会として、厚生労働省と協議の上、講習会を企画し、法改正に伴う「診療放射線技師（会員、非会員関係なく）の教育、研修の場を提供する」

→業務拡大に伴う行為を技師が実施するか否かは施設の運用にゆだねられる。

診療放射線技師の追加講習カリキュラム

【一般目標】

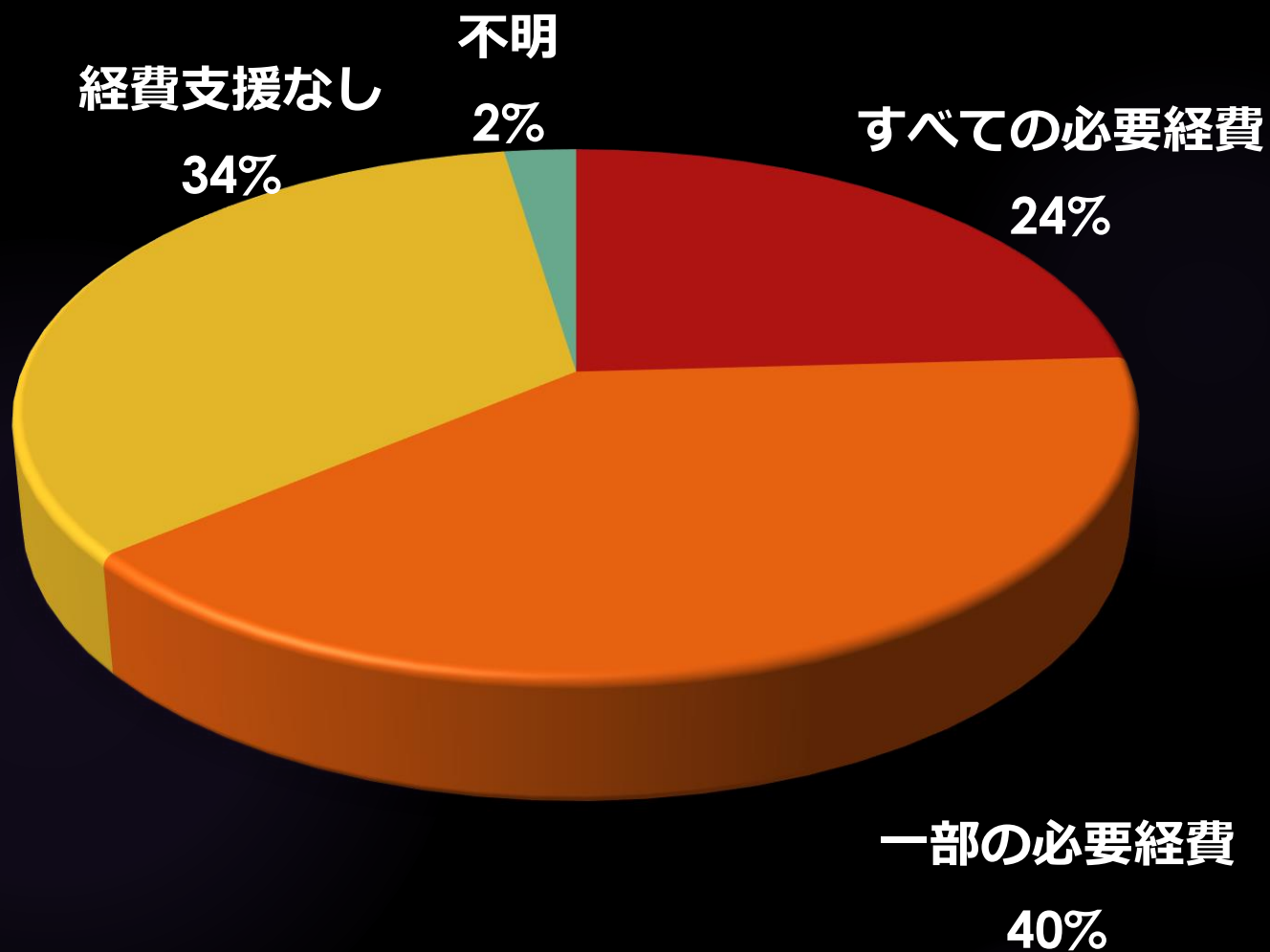
- 診療放射線技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、造影剤の投与など適切に検査に伴う行為ができる能力を身につける。
- 造影剤の投与に伴う危険因子を認識し、特にアナフィラキシーなど重篤な合併症の発生時に適切に対処できる能力を身につける。
- 造影剤の投与などの検査に伴う行為は医師又は歯科医師の指示の下で行われる事を認識し、責任をもって対応する。

項目	達成目標	時限
法律、倫理に関する知識	1 診療放射線技師法に関する法的知識及びその責任範囲、医療倫理について説明できる。	1
造影剤の血管内投与 静脈路の抜針及び止血に必要な知識・技能・態度	1 造影剤に関する薬理を説明できる。 2 造影剤に関するアナフィラキシー等を含めた副作用及び投与禁忌について説明できる。 3 感染管理及び医療安全対策(針刺し事故を含む)について説明できる。 4 アナフィラキシー等を含めた副作用が発生した場合に速やかに医師等に連絡し、自らが一次救命処置(BLS)を実施できる。(シミュレーション) 5 適切に感染管理及び医療安全対策を行い、安全に静脈路の抜針及び止血ができる。(シミュレーション)	5

下部消化管検査に関する業務に必要な知識・技能・態度	1	検査を受ける患者の心理や高齢者・女性にも配慮した接遇について説明できる。	5
	2	肛門及び直腸を含む下部消化管に関する解剖を説明できる。	
	3	下部消化管検査における造影剤に関する薬理を理解し、安全に造影剤及び空気を注入する方法について説明できる。	
	4	感染管理及び医療安全対策について説明できる。	
	5	下部消化管検査において、適切にカテーテル挿入部を確認し、肛門よりカテーテルを挿入して、安全に造影剤及び空気を注入できる。(シミュレーション)	
画像誘導放射線治療 (image-guided radiotherapy : IGRT) に関する業務に必要な知識・技能・態度	1	検査を受ける患者の心理や高齢者・女性にも配慮した接遇について説明できる。(再掲)	4
	2	肛門及び直腸を含む下部消化管並びに前立腺や子宮などの骨盤内臓器に関する解剖を説明できる。	
	3	骨盤内臓器がんに対するIGRTの内容を理解し、安全に空気を吸引する方法について説明できる。	
	4	感染管理及び医療安全対策について説明できる。(再掲)	
	5	適切にカテーテル挿入部を確認し、安全に肛門よりカテーテルを挿入することができる。(シミュレーション)	
試験	1		1
合計	1		16

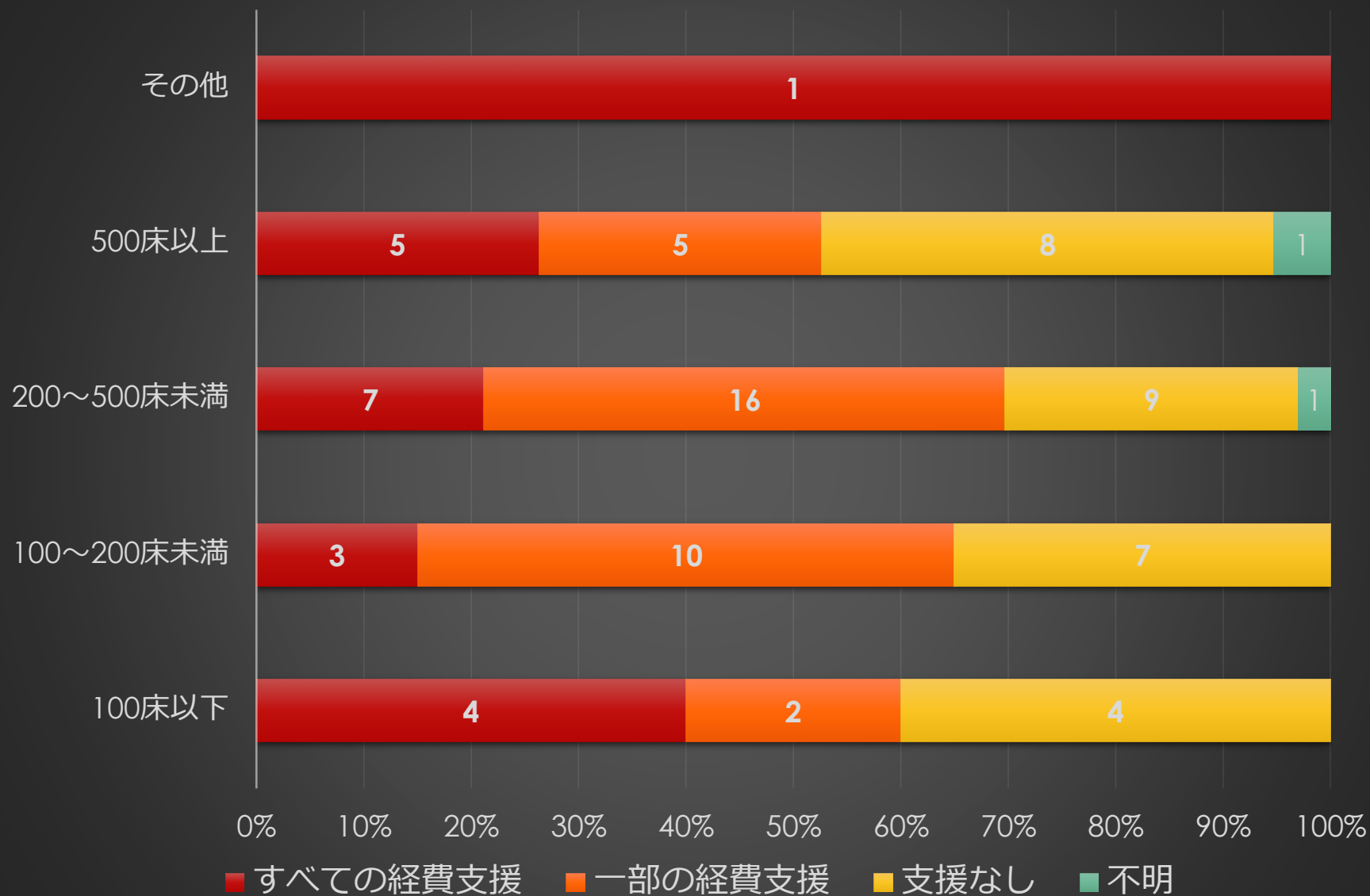
※1時限＝50分

業務拡大に伴う統一講習会の経費支援



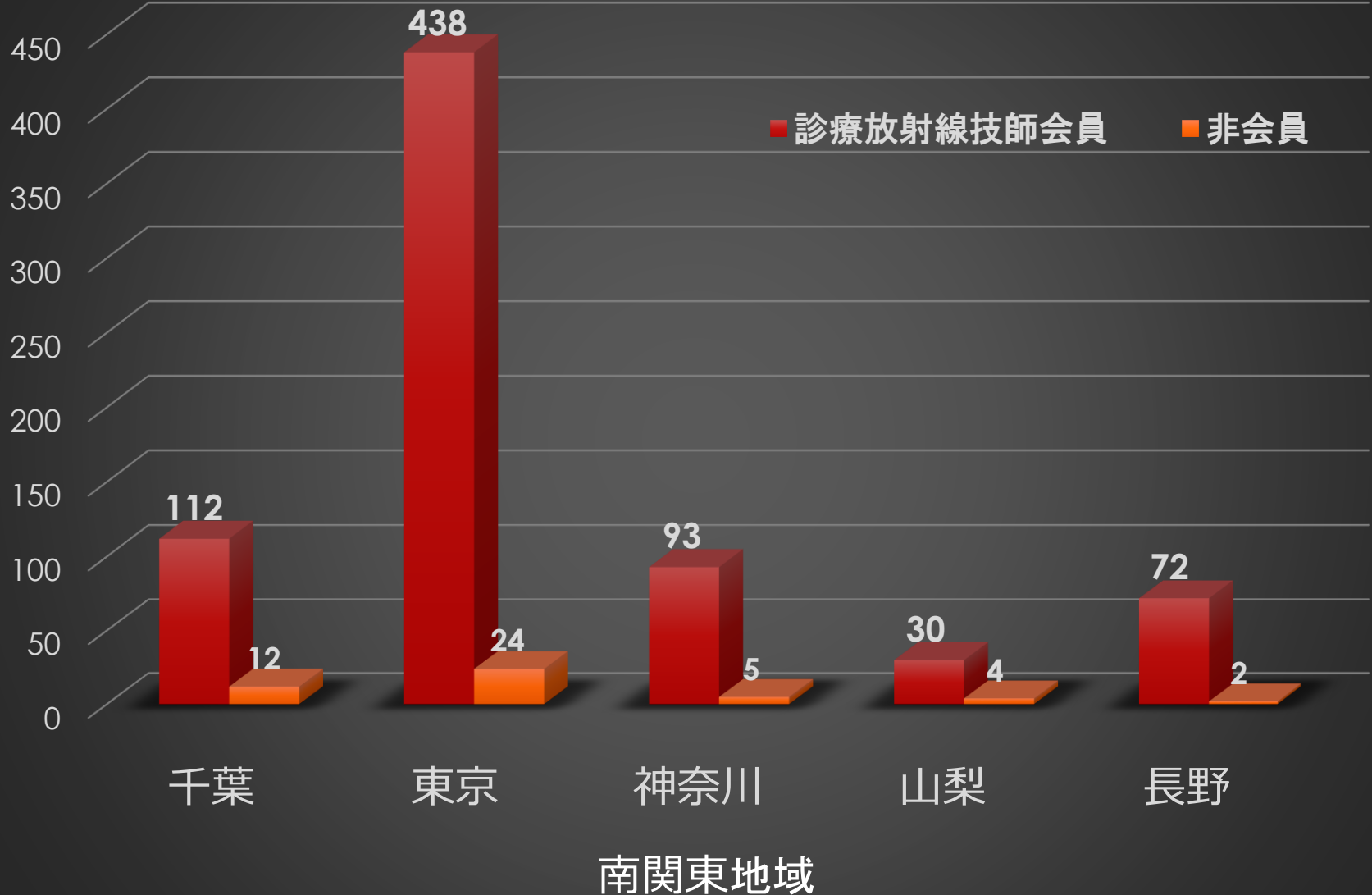
n=83

施設規模別経費支援の割合

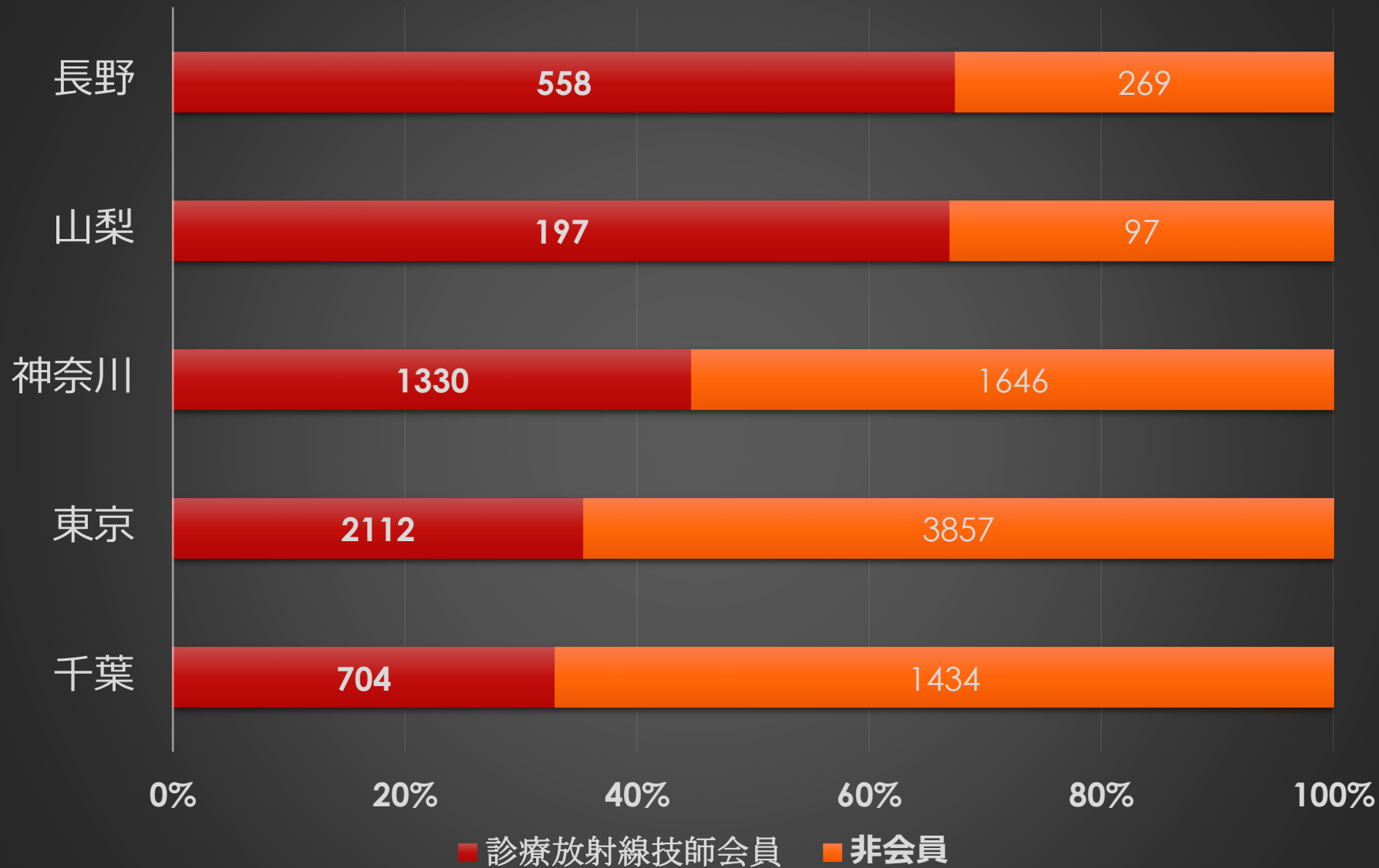


平成27. 28年度の受講人数

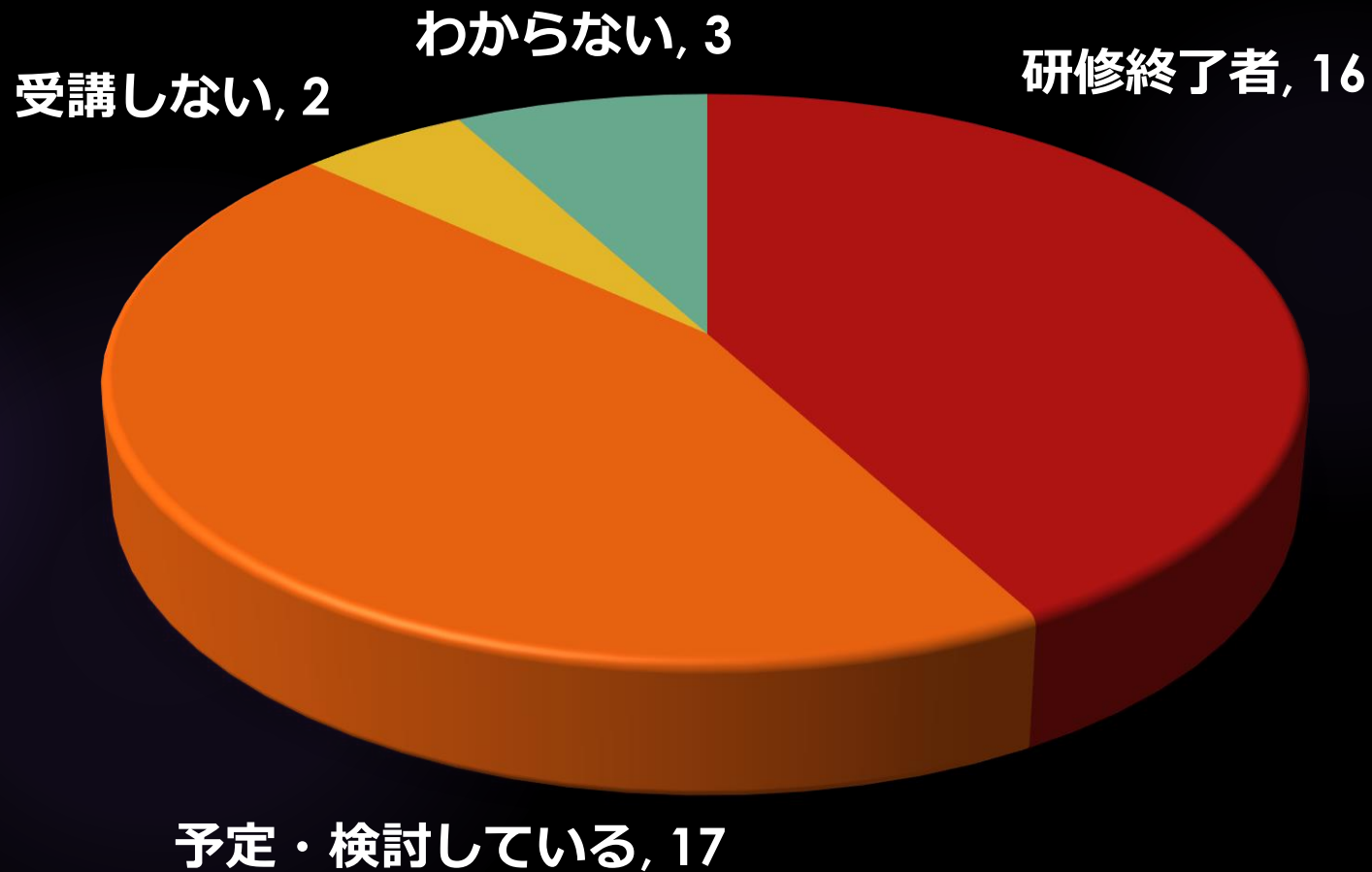
業務拡大に伴う統一講習会 平成27、28年都道府県別受講率
(会員数H28.8.31/医療従事者数H26.10.1/受講者数H28.11.4)



南関東地域の技師会の入会数と割合



当院の現状（診療放射線技師38名）



現状と今後の課題

- ◇業務拡大に伴う統一講習会の経費支援は64%
経費支援なしは34%
施設規模で優位な差は見られなかった。
- ◇平成27.28年度の南関東地域の受講者の大多数は技師会員であり
非会員の受講者は極端に少なかった。
→受講費（会員1.5万円・非会員6万円）・意識の問題か？
- ◇当院では講習会受講者が50%を超えたら始めたい→42%（16/38）
→C T． M R I での抜針業務から開始予定。
- ◇技師会非会員の技師に積極的に研修に参加してもらい、
受講技師数を増やすことで、臨床現場の活用が期待される。